

「吟魂燃ゆⅡ」 岳精流日本吟院平成二十七年発行）より転載

## 千代田岳精会の詩歌研修会

千代田岳精会 渋谷辰風（注）

私どもの千代田岳精会には、幾つかの研修部門が設けられておりますが、その一つに「詩歌研修会」があります。この会は平成十五年初頭、当時の飯田友夫（精鷹）会長（現最高顧問）や、磯田貞二（精信）副会長（現本部常任顧問）をはじめとする幹部の肝いりで、吟友会員の吟力向上のために、各教場を横断した詩歌の勉強会を設けることがきまったもので、その担当リーダーに私が選ばれたのです。

とはいえ、私がこの道に造詣が深かったという訳では毛頭ありません。なにしろ平成七年八月、偶然の機会で千代田（岳精会）に入るまでは、全く関係のない貿易関連の事業に携わっていたからです。幸い指導の先生に恵まれ、教場での研鑽は厳しい中にも楽しい雰囲気を味わって参りましたが、基本的な吟詠の勉強が進むにつれ、その詩や作者についてもっと深く知りたいが、教場での解説では時間的に不十分だと感じるようになっていました。そこに、詩歌研修会創設の話が出、リーダーの指名をお受けしたのです。

ともあれ会としては初めての試みであり、何処から手をつけるか悩みましたがサブリーダーに選ばれた前田道紀（道風）山口隆久（隆風）両氏とも相談して、勉強会は千代田の会員が誰でも何時でも決まった会場に自由に無料参加できるようと、月一回、決まった曜日と時間に行くこととしました。次に研修の対象は岳精流詩吟教本（天、続天及び地の巻）に掲載の漢詩に絞る事を原則とし、更に肝心の講師については、外から仰ぐのは経費とか人選の難しさから諦め、会員の中から有志を募ることにしたのです。

かくして平成十五年四月十五日の旗揚げは、最もポピュラーな「李白」を取り上げて、その経歴や当時の社会的背景などを勉強し、その作詩の幾つかを学ぶことから始まりました。

研修会は今年で十二年目に入りましたが、その間、月一回の研修日には二、三十人程の会員が参加して、延べ三千人に達しようという実績を上げております。

又、研修対象は、中国は初唐から清の時代にいたる詩人達とその作品に続いて、日本の平安時代から昭和の詩人達とその作品にまで及んでいます。何れもその前年に参加会員の希望や意見を基に決められたものです。更に中

国、日本の歴史それも古代史から現代にいたる歴史を勉強しようではないかと云う機運が参加者の間に盛り上がり、平成十九年から二十二年の四年間は朝鮮半島も入れた、極めてユニークな勉強会となりました。

この研修会の特色は、全てが千代田の吟友による手作りであることです。毎年会員のアンケートによって決められたテーマを、自他推薦の会員有志が講師となつて、古今の資料や参考書等を基に研究し纏めた結果を発表します。そして自由参加の会員達はその講義を二時間ほど勉強したのち、質疑応答や感想などを話し合い、最後に題材の漢詩を声高らかに合吟して散開するといふ、まさに会員相互による楽しい研修会なのです。

昨年からは、原点に戻つて、李白・杜甫の勉強から入ったのですが、有難いことは、此処数年新しく千代田岳精会に入会した吟友の幾人かが、自らの勉強になるからと、講師を積極的に引き受けて新しい観点からの発表をしてくれていることです。

前途洋々、詩歌研修会を良き後輩に託すことが出来ると、心より感謝している次第です。

(注) 令和元年十一月現在 渋谷龍報